

# ~早めの対策が肝心です~



来年のジャンボタニシの被害防止には、稲を食害するジャンボタニ シの成貝の越冬を防ぐことが効果的です。

### 土が固い時の耕うん(秋耕)

土が固い状態での耕うんは、効率的に成貝を破砕し、殺傷に有効です。

- 作業速度は通常より2~4割遅く(時速1.4km以下) (1)
- ロータリーの回転数は早く(PTOギア2速) **(2**)
- ほ場全面を残さず耕うんする。 **(3**)



### 2 厳寒期の耕うん(冬耕)

ジャンボタニシは寒さに弱いため、厳寒期(12月下旬~2月)に 耕うんすることで、掘り起こした貝を寒気にさらして殺します。

① 複数回耕うんする場合は、1か月程度期間を開けて耕うんする。 ※ 掘り起こした貝を土中に戻すことを防ぐため

#### 石灰窒素の秋散布 3

石灰窒素には、貝を殺す効果があります。 水温15度以上の時期(概ね10月中旬まで)に散布します。

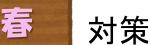
- 湛水状態 (3~4cm) で数日間放置 (1)
- **(2**) 石灰窒素を10 a 当たり20~30kg散布
- 数日間放置して自然落水
  - ※ 魚介類にも毒性があるので、水は水路に流さない。
  - ※ 翌年コシヒカリを栽培する場合、粘土質のほ場の場合は、 基肥窒素を10a当たり1kg程度減肥する。

不明な点は、千葉県夷隅農業事務所まで御相談ください。

TEL 0470-82-2213 (改良普及課)

### 夷隅地域農林業振興協議会

(勝浦市 いすみ市 大多喜町 御宿町 JAいすみ 夷隅農業事務所)



## ~浅水管理と農薬の適正使用~



稲を食害するジャンボタニシの被害を減らすためには、移植後の対策の徹底が重要です。

### 1 浅水管理

ジャンボタニシは水深が浅いと活動が制限され、水中でないと摂食できないため、浅水管理での食害防止が基本です。

- ① 代かきを丁寧に行い、ほ場を均平にする。
- ② 移植後は、水深を4cm以下の浅水管理
  - ※ 移植後3~4週間(水稲5葉期)まで浅水管理
- ③ 除草剤散布後、1週間程度は水深3~5cmを維持



### 2 薬剤散布

以下の登録薬剤のいずれかを散布し、殺貝や食害防止を図ります。

- ① 湛水状態 (水深3~5cm) で、発生状況に応じて適切に散布
- ② 薬剤散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

### 【登録薬剤】

殺 貝 効 果 :スクミノン、ジャンボたにしくん

スクミンベイト3(※ 有機JAS規格に適合)

キタジンP粒剤

食害防止効果:パダン粒剤4

※ 登録薬剤を使用し、必ず**使用時期、使用方法、使用量、使用回数** を遵守する。

不明な点は、千葉県夷隅農業事務所まで御相談ください。

TEL 0470-82-2213 (改良普及課)

### 夷隅地域農林業振興協議会

(勝浦市 いすみ市 大多喜町 御宿町 JAいすみ 夷隅農業事務所)